

菊川市の多文化共生の取り組み ～ 教育 ～

外国人児童生徒の在籍数

菊川市の小中学校には、小学校に約130人、中学校に約30人の日本語指導が必要な外国人児童生徒が在籍しており、その多くはポルトガル語を母語としています。外国人児童生徒が多く在籍している学校には、ポルトガル語が分かる専任の教員を市単独事業として加配して指導にあたっています。

【外国人児童・生徒初期支援教室】

入国してまだ日が浅く、日本語がほとんど出来ない児童生徒や日本語になじみの無い児童生徒を対象に指導員がひらがなやカタカナを丁寧に指導しています。



【外国人児童・生徒支援教室】

初期支援教室を卒業した児童生徒が国語や算数などの授業時に所属するクラスから外国人児童・生徒支援教室に集まり日本語や日本文化など様々な学習をしています。



ブラジル人学校

市内には、ポルトガル語を母語として教育しているブラジル人学校が3校あり、約170人の外国人児童生徒が在籍しております。学校には、送迎サービスがあるため市内や隣接市以外の焼津市や磐田市など遠方から通っている子供もいます。

ブラジル人学校は、ブラジル本国からの認可を受けている場合もありますが、日本国での「各種学校」の認可を受けていない学校がほとんどで菊川市内のブラジル人学校も各種学校の認可は受けていません。



ブラジル人学校

静岡県では、モデル事業として県内3校のブラジル人学校に日本語教員を派遣しており、菊川市では「ソフィゾ デ クリアンサ」に派遣されております。また、菊川市では、学校から要請を受け出前行政講座や交通教室を開催したりしています。



出前行政講座